

戰列に立つ淨瑠璃人の覺悟

五松園主人

我國の藝道は斯くあれ、決戦下の淨瑠璃は斯く進めと皇國藝道本然の姿が苛烈なる戰爭吹雪と共に寄來る豫感あり。文部省は一月廿七日宗教教化委員會を招集し、宗教による教化活動を強化促進する方策如何を諮問された。これに對する委員會の答申は五月九日同省から發表された、要項。第一條宗教教化活動の強化促進に關する方針の六題目を掲げ、第二條その實施事項に就いて目標と方法を示し、第三條活動の強化促進に關する新しい機關の設置擴充を企畫し、宗教行政機構の誕生を要望して居る、依之觀之に明治、大正、昭和の三代を通じ動もすれば閑却され別世界扱ひされし宗教界に對し鮮明の性格を與へ確乎たる目標を指示し國家非常の秋全宗教界は一億國民の先頭に立ち破邪降魔の寶劍を揮ふべしとの大號令である。

一步を進めて其の破邪降魔の寶劍とは如何なるものであるかを吟味検討するに

一 わが國の宗教は皇國の道に則り各立教の本義に基づき國民を教化し以て皇運を扶翼し皇國無窮の發展に貢獻するを其の本旨とす依て先づ此の本旨をいよく發揮し戰時宗教

教化活動の強化促進をはかる事最肝要なり（わが宗教の本旨闡明せるもの）

二 戰時下に於ける宗教教化活動は宣戰の大詔を奉戴し、宗教的信念、情操の涵養によりて國民の思想生活を啓導し以ていよく國民の戰意を昂揚し國策の滲透をはかつて戦力の増強に資せしむる事肝要なり（決戦下宗教界の使命）

三 各宗派、教團は自肅自戒もつて其の組織、運営を整備強化し各その特色を發揮すると共に相互の連絡提携を一層緊密にし其の總力を結集して時局の進展に即應し清新強力なる教化活動を展開する事肝要なり（各宗各派の提携を強調）

四 寺院、教會と教壇信徒との結合をいよく強固ならしむると共に各種團體との緊密なる連絡の下に學校、職場その他各方面にわたりて國民の宗教的信念、情操を涵養し以て全國的戰時教化網の確立を計る事肝要なり（教師、信徒が舉つて戰時教化網の結目たるを要望）

五 宗教教化活動の成否は畢竟これを行ふ人にあるを以て宗教家をして戰時下眞に世の師表たるの矜持を持し、躬を以て國民を指導せしむると共に國民の宗教尊重の氣風を馴致する事肝要なり（宗教尊重の希望を持てと勸む）

六 大東亞諸地域に於ける宗教の重要性に鑑み彼我宗教の傳統を尊重しつゝ其の親善提携を促進すると共に大東亞宗教文化の興隆を計り以て大東亞建設に貢獻せしむる事肝要なり（大東亞宗教提携の重要を説く）

以上六項の内特に注目すべき重大事項は

第一わが國の宗教の本旨闡明は言句に於て極めて當然なることを極めて平明に受取つて居るが如きも其の一字一字に血の滲む程委員會の努力が籠り居るを感ず、わが教育が皇國の道に則る教育であると同じくわが宗教は當然皇國の道に則る宗教である。勿論佛教は飽く迄佛教、キリスト教は飽く迄キリスト教とそれ／＼立教の本義に基づいて活動することに何の變りなく行く途は唯一つなのである。

聞説委員會審議の半は此の一項で費されたと云ふが八絃一字の四字は最端的に茲に活されてゐるのである、宗教人、信徒としての義務が第四の理念となつて裏つけてゐる點は地味なこと乍ら特に注目に値する、現在教壇信徒として概算される數は全國で實に五千六百萬、その數をウント割引して考へて見ても國民の幾割かは信徒である。信徒としての活動は私的活動でなく公的活動でなければならぬ。信徒の一人一人が其の信念と力を全國的戰時教化網の確立に捧げねばならぬといふのが第四項の心なのである。

更に第五項は「宗教無關心」の現思潮へ強い反省を求めてゐるものと思ふ。明治三十二年文部當局は教育と宗教は全然切離して進むべしと云ふ思切つた通達を發せられた此の方針は不動のものとして昭和十年まで受繼がれて來た。同年文部次官依命通牒によりて一宗一派に偏することははいけぬが宗教

的情操、信念は大いに啓培して進まねばならぬと明らかに百八十度の轉換をされたのであつた。此の通牒は教育面には案外滲透しなかつたが、それは偏へに國民一般の宗教に對する無關心の故であつたらうと思ふ。當局が今日「宗教尊重」の四字を明らかにされた所以は由來國難に際して不滅の光芒を放ち來つた皇國宗教の底力が今次征戰にこそ最も大きく發揮されんことを期したにほかならぬと推測するのである。

以上の六方針は各人各個自由勝手に實施し得るであらうか勝手に放任しても確實に執行するゝであらうか、如何に立派な計畫組織も之れが實踐躬行されず、徒らに理想論に終つては時間潰しとなるのみ。其の實施方策や如何、流石に宗教團は單に地獄、極樂を説き、葬式年忌の勤行だけでは今日の宗教教化活動は果されないことを知覺し、大東亞建設に貢獻すべき宗教家の活動責務は何よりも先づ大詔の聖旨を貫徹する外に何物もあらず、それには次の十目標を定めて具現せんとする方策である。

- 一 承諾必謹、盡忠報國の至誠を涵養する事
- 二 敬神崇祖の念を涵養し我國の家の本義に徹底せしむる事
- 三 大東亞戰爭の本質及性格に關する認識の徹底に努め必勝信念の昂揚を計る事

- 四 死生を超脱して悠久の大義に生きるの精神を涵養する事
- 五 沒我報恩の精神を涵養して協力一致職責貫徹に努めしむ

る事

六 皇國勤勞觀の徹底を計り創意工夫に努めて戦力の増強に資する事

七 困苦缺乏に耐へ時艱克服に率先邁進すべき強靱なる精神力を涵養する事

八 國民道德特に經濟道義を昂揚し遵法精神の徹底を計つて簡素剛健、眞摯明朗なる戦時生活の確立を期する事

九 人心の焦躁荒涼に涉るを戒め禮節を貫び秩序を重んじ寛厚敬愛の氣風を馴致する事

十 大東亞建設の重責を荷ふ國民たるの高邁なる識見と宏大なる氣宇とを涵養する事

以上は實に堂々たる大抱負大見識、流石に寺子屋時代より民衆教育を掌りし凡夫濟度の知識たり、宗教界の改革氣分は全段に漲つて居る。これにあらざれば昭和文化的の衆生濟度は口に云ふても行はれぬのである。京阪に廣き地面を占有する寺院撤廢論の喚起せんとする時に當り降魔の寶劍は一億國民勇猛心の先陣を爲し、布教師一萬人を生産陣へ動員するなど前代未聞の大飛躍さだめて釋迦も達磨も満足を表するであらう斯の如く寺院教會の戰陣進出が各方面に如何なる衝動を與へしかを探討検討するに。一般家庭にては

敬神崇祖、報恩感謝團欒和諧を旨として何時も「家」の精神を中心として進む朝夕の禮拜勤行、食事の作法、宗教的

行事などを眞心こめて勤めてゆく。

寺院教會の總意 十目標の貫徹はまづ寺院教會からだ、冠婚葬禮の會場から今日では「國民教化道場」として新發足し清新潑刺たる精神鍛鍊場、軍事援護の中心、各種の鍊成場、託兒所、防空施設の中樞として活躍する事は勿論、今後は特に教團信徒の常會を強化し、信仰を通じて國策の滲透を計つて行く。

學校方面の熱意 昭和十年の次官通牒を再認識し、學徒の宗教的關心欲求の發露を極力助長して進むが、一方文部省でも教授要目、教科書などの作成に當つては十分宗教への認識を深め宗教的情操を涵養させるやう留意し、直接教育にあたる教員の宗教教育に萬全を期す

職場の意圖 一流の布教師、宗教家を會社、工場、鑛山などへ大量に派遣する事が第一、派遣と云つても從來の様に説教に行くだけでなく相當長期にわたつて職場に挺身せしめ、班長や監督として職場戰士の精神指導に當るはず、このためまづ「宗教家一萬人動員」が近く斷行される、一萬人の内佛教七千、神道二千、キリスト教三百人の豫定、一方各職場に宗教施設を設け「行」の實踐に力點をおき、宗教教師の派遣に際しては一宗一派に偏せず特に皇國勤勞觀の昂揚を期す。

宗教家の熱意眞劍かくの如し、わが淨瑠璃の本尊日本因協會

の意嚮や如何、前記宗教教化委員會へ諮問の答申六方針、十目標は直ちに淨瑠璃人の覺醒すべき雷撃とは感ぜざるや。淨瑠璃が大東亞建設に依つて受けたる衝動感及時代對應策に如何なるものなりや。五月十一日の朝日神風賦は不思議にも豫て本誌懷抱の卑見と殆んど同様意見を輕妙朗快に説き誨えたり、淨瑠璃人は耽讀大に學ぶべきものならん。

戰爭下の日常生活を明朗化しよう、人々の起居身邊に、潤ひをつけようといふ事が近頃大分高まつて來た。生活の潤ひ、朗かさが、人々の仕事の上に影響を持つ事は云ふ迄もない。人間、早朝から深夜まで瞬時の憩ひなく働く事は出來ぬ。氣分の轉換、慰安、娛樂が必要である。何等かの方法で頭腦のしこりをほぐす要がある。戦時下健全娛樂の效用は官民共にこれを認めてゐる。問題は、健全娛樂が健全の形容詞に捉はれて、餘りにも多量の教訓味を盛り、御説教の替唄に類するものとなるため藝術本然の姿を失ふ點にある。餅菓子、矢張り砂糖が利いてゐて甘い方がいい。餘にも鹽味の餅菓子は何人も戴きかねる。小説、芝居の主人公は常に必ずしも應召されたり、徵用されたりする必要はない。どんな生活面を描いたものでも、そこに人間の眞心が滲み出たものがあり、醇美な藝術作品であれば、人の腸を洗ふに足る。此の意味で、健全娛樂を考へ直す必要がある。更に國民生活を明朗化するには何事についても、蓄を

してはつきりしないといつた感じのすることを拂拭するが肝要である。五月場所が世人の人氣をあふつてゐる。相撲は、たまに物いひがつく事があるが、勝負がはつきりしてゐて誰が見ても氣持いい。明朗さである。何事も原因結果の關係がはつきりしてゐる事は愉快である。

藝術家殊に淨瑠璃人の百讀玩味すべき貴重文字なり。説教の替唄。應召芝居。舊芝居の換骨奪胎。習取節付等の文字は昭和文化和を發揮すべき明朗生活。健全娛樂を盛りたる醇美なる藝術には有つてならぬ不愉快千萬なる醜惡文字なり。淨瑠璃著作家、作曲家達に更に一段の考慮發奮を切望せざるを得ず

捨短 取長

皇國民なるが故に純粹日本人なるが故に大和風土に即したる國音を有する日本語で談話し講演し若くは謡ひ或は語り以て日本臣民の精神と意氣を明示し國風を昂揚し成程日本の強き理由海戰に捷し陸戰に破り空中戰に經濟戰に藝能戰に各優勢を占むる理由を知らざるべからず。何故大東亞戰は勃發したか英米氣分は英語から、學術、技工、製品、思想、道德、藝能と一步一步侵入し來り遂に世界未曾有の大戰となり奇烈興廢を睹したる決戰段階に對峙するに至らしめたり、故に皇國民たる者特に淨瑠璃人は英語英文を第一に排斥國外に驅逐し其の音聲曲節を擊滅し純真なる大和音一途で進み、飽くまで短を捨て長を取らざるべからず之が爲には學校教育は固より日常の談話、國民歌、放送等特に嚴密なる國民取締を要望す。